キャラクター名
グリフォス・K・ホワイトフォード

プレイヤー名

シンドローム	ブラム＝ストーカー エグザイル	ワークス	UGN支部長A	カヴァー	ボードゲームカフェ店長
オプショナル		年齢	31	性別	男性
覚醒	死	衝動	加虐	初期侵食率	33 %
出自	待ち望まれた子	経験	海外生活	邂逅	同志

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	3	1	3			7
感覚	3	0	0	1		4
精神	1	0	0			1
社会	1	0	0			1

HP	35
行動値	9
(非装備時)	9
戦闘移動	14
全力移動	28

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	4		射撃			ＲＣ			交渉		
回避	1		知覚			意志	2		調達	1	
運転：二輪	2		芸術：			知識：			情報：UGN	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
赫き剣	白兵	7r+4		消費HP+2		消費HPは［LV*2］まで
深紅の一閃（100%未満）	白兵	8r+4		消費HP+2		《赫き剣》使用後、2HP消費
深紅の一閃（100%以上）	白兵	10r+4		消費HP+2		《赫き剣》使用後、2HP消費

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ
強化服	1	1			

合計装甲：	1	合計回避：	0

所持品	
コネ：UGN幹部	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
テレーズ・ブルム	P 好奇心	N 憐憫		
真田浩司	P 親近感	N 嫌気		
雲母木 羅綺	P	N 不快感		
PC2: 明智大五郎	P 好奇心	N 脅威		
事件の犯人	P	N 脅威		
NPC: 次藤修也（子供）	P 信頼	N 憎悪		
次藤士	P 幸福感	N 不安		

最大財産P: 4	残り財産P：

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：コスト分のHPで復活								
コンセントレイト：ブラムストーカー	3	2	メジャー					
効果：C値-LV（下限値7）								
血の宴	1	3	メジャー	範囲（選択）		対決		
効果：対象：範囲（選択）。シナリオLV回								
貫きの腕	1	3	メジャー	武器		対決		
効果：ガード不可(カバーリング時にも適用)。シナリオLV回								
ブレインハック	1	10	メジャー	至近	単体	対決		
効果：対象に憎悪付与　シーン中１回のみ								
異世界の因子	1	5	オート	視界	効果参照	自動	80%	
効果：　シーン内使用済エフェクト１つの取得(Lv.1)。シナリオ中１回のみ。エネミーエフェクト/制限:ピュアブリードの取得は不可。								
	★							
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

HO3）君はUGN、Ｎ市支部の支部長だ。現在Ｎ市では、アウェイクンと名乗るFHのエージェントが猛威を振るっていた。アウェイクンは他者のレネゲイドウィルスを強制的に活性化させ、一般人を一気にジャーム化させるという事件を起こしていた。しかし、年齢や性別といったパーソナルデータは一切不明のまま、依然正体を掴めずにいる。
　ある日、N市にある遊園地でウィルステロが発生した。手口は一般人の強制ジャーム化によるもの。君は、UGN日本支部長、霧谷雄吾からアウェイクン討伐任務の責任者を任されることになった。

紹介）遊戯王（ペガサスJクロフォード）が元ネタです。

世間的な成功者であった。今も表向きはそうだが、「あの日」以来、私の世界は反転した。
ダブルクロス。人間にもオーヴァードにも、成り行き次第では敵対しうる身の上だ。こんなことでは、命がいくつあっても足りないだろう？

霧谷の掲げる理念に保身の可能性を見出し、テレーズの作る世界に興味が湧いて、UNG支部長なんぞをやっている。
内心はオーヴァードとしての加虐的な衝動を飼いならしながら、任務にあたる日々だ。

「あの日」以来、私の頭はおかしくなってしまった。
自分や他人の体から、血が流れる様子を見たくてたまらない。
人の肌を見て、血液の温度や、その経路がわかる。
生暖かいソレがどんな風に体の中を巡り、どう傷つければ血が上手く噴き出すか、想像できてしまう。

「生きている状態」と「死んでいる状態」の境界はどこにあるだろう？
どこまで血を流しても、人は生きていられるだろうか？